

令和八年九月吉日初版作成

宇宙人という存在と宇宙子科学

高嶋善三郎

目 次

- 宇宙人という存在・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 何故宇宙天使が降りてこられたのか・・・・・・・・・・ 3
- 降りてこられたのは、金星の宇宙天使・・・・・・・・ 5
- 地球人類の完全平和達成のための宇宙子科学・・・・ 7

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。
より分かりやすくするため、い感想があれば、
お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせします。

（スマホ） 090-33346-6619

（メールアドレス） zensan@peach.ocn.ne.jp

宇宙人という存在

五井先生のみ教えの中で、宇宙人について言及されていますが、どのように説明されているか、『白光誌から』等から整理してみましょう。

地球人類と宇宙人（星の人類）との違いについて、『人類の未来』（62ページ）において、次のように言及されています。

「宇宙人は神霊そのまま物質化している存在であるので、物質宇宙人は即座に神霊に還元することができる。それに対し、地球人類は、神霊がそのまま物質化しているのではなく、神霊の微妙な波動から、物質（幽体）の波動にひびきを粗くし、そして物質化というもっとも粗い波動になって、肉体人間となってできている。つまり四段階（くわしくいえばもっとも多くの段階）になっている。

宇宙人が神霊の微妙な波動を幾分粗（あら）めただけで物質化（真実化）できるので、すべての点において地球人類より、はるかに自由自在な存在なのである。

こういうと、地球人類のすべてが、宇宙人にまるきり劣るかといえば、そうではなく、この地球世界にも、宇宙人と同等の、いわゆる宇宙人並み肉体的の現れ方をしている人達がある。イエス・キリストや釈尊はそ

うした人たちであったのであり、今日でもそうした人が何人かは存在するのである。そして、これから修行次第では、宇宙人並みになりうる人たちがまだまだたくさん存在するのである。

これからは、自らを宇宙人だとか、宇宙人と会っているとかが、宇宙人の通信をうけているとかいう人々が、次々と現れてくるであろうが、その真偽は、その人の自身の人格の高さや、その団体の正しさや清らかさによって判別しなければならない。

やたらに宇宙人のことを口にしていても、その人の想念行為が低いものであったり、輝きのないものであったら、その人のいうことは、虚偽であるか、背後の霊魂のいたずらに違いない。それは霊能者の場合も同じであって、もし、そうした低い想念行為に感應して出現してくるような宇宙人と手を握っても、地球人類は救われようもない。」

何故宇宙天使が降りてこられたのか

五井先生のもとに、何故宇宙天使が降りてこられたのが、言及されています。

私たちの世界平和の祈りの光の波が、宇宙人の持っている心の波と、全く等しいひびきであったから、自ずと一つに結ばれたのであると説明

されています。

「宇宙の人々は、宇宙の関連として都合が悪いので、地球をつぶすまいという手を尽しているのである。そこで宇宙人は今まで、地球上に自分たちの働きやすい場所はないか、場所をつくらないか、といういろいろ調査に来ていたのである。私たちがそこで世界平和の祈りを始めたのである。宇宙人は働きやすい場所が作られつつあるものであるから、非常に喜んでいよいよ降りて来ようとしているのである。高天原は市川に出来た。これから本格的に統一に入る。」(1958年7月号42ページ)

「宇宙人の方から私たちに縁を結んでこられ、種々と交流し始めたのである。宇宙人の方から何故縁を結んでこられたかという、私たちの世界平和の祈りの光の波が、宇宙人の持っている心の波と、全く等しいひびきであったから、自ずと一つに結ばれたのである。」

そして世界平和の祈りのグループを通して、宇宙人の地球人類援護という約束が成立したのである。」(1959年4月号5ページ)

「宇宙人という、何か近頃になって現われて来たもののようであるけれど、実は遠い昔から宇宙人は、地球世界に関心を持っていたのである。」

というのは、地球世界というものが出来た当初に、地球世界の浄め、天降って来たのは、やはり宇宙人であったのである。日本古事記の天孫

降臨でもそうであるし、イエスや仏陀なども、宇宙人の中から天降って来て、地球人類救済の任にあたった天使だったのである。

宇宙人たちから見れば、地球世界の平和が達成されなければ、宇宙全体の調和が出来ないという事になるので、ぜひ地球人類を平和にする援助を、しなければならぬ事になっているのである。(1962年4月号11ページ)

「この間も宇宙人に会い、円盤に乗ったという人があった。なぜ宇宙人は地球にやって来るのかというと、もし地球が核戦争でもすると、宇宙の他の星に大きな迷惑をかけることになるのである。そういうことをされては困るので、調べているわけである。それで地球人と協力して、本当の平和の世界をつくらうと来ているし、働きかけているのである。」

(1974年7月号18ページ)

「現在の地球人類の、自分たちが滅びるのは嫌なくせに、他人や他国を平気で滅ぼしてしまおうという、その幼い精神状態は、進化した星の人々から見れば、危険で見ていらぬような状態である。」

そこで進化した星の人々は、常に地球の監視をおさおさ怠らずにいるのである。それが空飛ぶ円盤の出現であり、宇宙人の時折りの出現であったりするのである。」(1975年9月号6ページ)

「私どものいう宇宙人というのは、神々なのである。大神様がある。それから地球人類としては直霊に分れ、分霊としてたくさんに分れて存在している。直霊の中でも違う役目があって、例えば金星なら金星、火星なら火星へ行っている。その中の一番浄まった人たちが集まって「さあ、今度は地球を救わなければいけない。少しおかしいから、テコ入れをしなければ」というわけであるのである。

そして宇宙人の力が現われて「お前さんは姿を現わせよ」「こちらは円盤を現わそう」とかいろいろやるわけである。私どもには、科学の智慧として来ているのである。」(1975年12月号20ページ)

降りていられたのは、金星の宇宙天使

降りてこられた宇宙天使について詳しく言及されています。

金星の長老と合体されたのは、1962年2月28日であり、その前から、交流されていたことがうかがえます。

「金星の長老の言によると、地球人の宗教観念は、かえって真性を損ねる宗教的カルマとなって、地球の進歩を遅らせかねない、といわれている。」(1959年4月号10ページ)

「宇宙人の高い心と、ひびきを等しくでき得る一番やさしい教は、消え

てゆく姿と世界平和の祈りである。これは金星の長老の言葉ですから、まちがいない。」(1959年4月号11ページ)

「お山で統一していた時、金星の長老から教えられたのであるが、先生の中に三人の金星の長老がいて、

一人は、宇宙人といっても全部が、金星や木星火星等の、地球平和実現を援助するために、働いている宇宙人ばかりではなく、平和の運動をじゃましようとする星の働きもある。

それをコントロール、調節して、平和を乱すような星の運動も、ついには大光明に同化してしまおうという働きを司る。

二人目は、地球人類の心の中から、迷い、業想念を取り去る観音様の働きをする。

三人目は、天変地変をコントロールする、業の消えてゆく姿の現われを、最小限度に止める、あるいは全く消してしまう働きをする。

この三人の長老が、中心になって働いているのだ、と教えていただいたのである。」(斉藤長老)(1959年4月号36ページ)

「暁の祈りの時に、金星よりもっと上の星、金星を支配している星があるのである。こちらの言葉にあてはめれば司令となるのだけれど、そういう中心者がそのまま波になって入って来た。それがどういう形かと

いうと、私の形そのままに入ってくるわけなのである。」(1961年10月号47ページ)

「宇宙人は個人個人を救おうなど思っていない。地球全体を救おうと思っているのである。個人個人を救うのは守護霊である。であるから宇宙人は、地球全体の救いに関係ないものは、みな無視してしまう。」(1961年10月号51ページ)

「宇宙人にいわせると、今日までの地球人類に伝わっている宗教は、この際、一掃してしまった方が良いとまで、極言しているのである。

何故そんなことを宇宙人が言うかという、今日では古来の聖者たちの真の教えは、わずかその片鱗を現わしているのみで、全くゆめられ、神のみ心を損うような教えとなって、地球人類の進歩を阻害しているからだ。そうしたゆめられた教えを、真の宗教と思いちがえていることは、業想念の波を強める結果となるから、この際宗教の大改革が必要なのだ、というのである。」(1962年10月号9ページ)

「宇宙人の中でも、今現われているのは科学者ばかりであるが、宗教専門家で宗教的教えの波を流すという宇宙人もあるのである。

だから宇宙人が全部青白い光ではなく、金色の光の場合もある。長老というのは、どちらかといえば金色の光なのだから。長老は宗教的な面

でも来ているのである。」(1963年2月号58ページ)

「宇宙人は実に悠々としている。『あせることは無い。絶対、大丈夫だから。こちらから指導するから』と、はっきりの言っている。」(1967年1月号20ページ)

「地球も、皆さんに見えている物質体の他に、霊体神体というものがある。然としてある。それと同じように、他の星にも霊体というものがある。その中に宇宙人という存在が住んでいるわけである。」(1969年2月号29ページ)

「私共の言っている宇宙人というのは、イエスやお釈迦様よりズッと位の上の神々なのである。『我々は肉体を持ったことが無い』と言ってくるが、初めから肉体を持たない神々、救いの専門家である。

地球ばかりではなく、いろいろな星を救って歩いている、そういう専門家が、肉体に生まれて守護神となった神々と協力して、地球の平和を築こうとしていらっしゃる。」(1972年10月号20ページ)

「宇宙人は今、大宇宙の調和のために、地球の不調和を調整しようとして、地球人に働きかけて来ている。私共には科学の面と波動調整の面で働かれている。」(1977年4月号11ページ)

「地球は今、やっと神の力をまともに受けて、真実の地球の姿を現わそ

うとしているところなのである。

地球の物質波動より、はるかにはるかに微妙なる波動の世界で生活している星々から、地球を応援するために派遣された宇宙天使たちが、様々な角度から、地球に力をつけていてくれるのである。」(1978年11月号9ページ)

地球人類の完全平和達成のための宇宙子科学

金星の宇宙天使は、私たちの光を強めるために、守護神とはかつて、守護神に力を与えるだけでなく、地球科学ではどうしても探り得ない、宇宙根源のあり方を、はっきり自己のものとし、その科学力を、地球人類の完全平和達成のために自由に使い得る道、宇宙子科学を教えてくださいましたのです。その宇宙子科学について言及されています。

そして昌美先生は、白光誌2021年10月号9ページにおいて、宇宙子科学の最終的な部分であり、我々の最後のミッションは、神聖のエネルギーの共鳴現象をつくることだと説明されています。

「神を信じないものは救われない、というのは実におかしなことで、信じずるも信じないも、誰人たりとも一人として救い落とすことのないの

が、神の大愛でなければならない、と考え、自分が新しい宗教団体を開いたとき、その根本は、何処の宗教団体よりも、入り易く行い易い、日常生活そのまま、何の戒律もその人の自由を縛る何もの何事もない、易行道であった。それが守護の神霊への感謝行と消えてゆく姿の教えだったのである。そして後に、消えてゆく姿で世界平和の祈りという、個人人類同時成道の祈りに進展してきたわけである。そしてこの世界平和の祈りを多くの同志とともに祈り続けた結果、光明波動が宇宙の他の星々との間に道を開き、今日では遂に宇宙の他の星の人類、地球人類が宇宙人と呼んでいる人々との交流に成功し、地球科学ではどうしても探り得ない、宇宙根源のあり方を、はっきり自己のものとし、その科学力を、地球人類の完全平和達成のために自由に使い得る道を、彼らの指導の下に、地球人類のものにしようとしているのである。これを宇宙子科学と呼んでいる。」(1963年11月号4ページ)

「地球ばかりではなく、あらゆる星々を次々と救って、完全にさせてゆく役目の天使がいるわけである。

それが宇宙の神々、宇宙子科学の神々がそうである。」(1972年10月号20ページ)

「平和の祈りの大光明波動にのって、宇宙人が働きやすくなって、だん

だん現われてくるわけである。我々に宇宙科学として働いていらっしやるけれど、宇宙科学だけではなくて、いろいろな形の面で働きかけてきている。」(1973年3月号18ページ)

「この宇宙の神様(宇宙天使)」というのは、ただ宇宙科学を教えるだけではなく、皆さんの光を強めるために、守護神とはかって、守護神に力を与えているわけなのである。守護神の上において、守護神に力を与えているのである。それが私の霊団に対して、助太刀を下さっている。

(1979年7月号16ページ)

「最終的に五井先生が私たちに望まれることは、そうした世の中の波にまき込まれず、その波を超越してスカッと透明になる。つまり、神の受像機となることなのである。どうしたらそうなれるのかというと、世界平和の祈りによってなれるのである。

肉体・守護霊様・守護神様・エンジエラスカラーさん(宇宙天使)・五井先生・大神様と、波が一直線につらなる。宇宙大法則と一つにつながる。本当に天から自分の肉体まで、一直線につらなった時に、神様は、人間神の子としてお使いになるわけである。〔昌美先生〕(1984年9月号93ページ)

「すべての生命が必要とするものとして、水がある。水は、水素(H)

と酸素(O)の化合物である。水素と酸素が一緒になることで、この地上に水(H₂O)という全く新たな物質が生まれる。

同じように、人類にとって必要なのは、宇宙神の大光明エネルギーと肉体エネルギーが神聖復活の印によって一つになること。地上を超えたエネルギーと肉体エネルギーの共鳴現象が起きることで、全く新しい、全人類に神聖を思い出させるエネルギーが生まれる。こうして神人たちは、地球のすべての生きとし生けるものを救済して、一体となる。〔昌美先生〕(2021年10月号9ページ)

今日神聖復活の印を私たちは日々降ろし続けていますが、それがどのような背景のもと、また宇宙天使の支援をえて、確立したかを改めて知らされます。

そして人類にとって必要なのは宇宙神の大光明エネルギーと肉体エネルギーが神聖復活の印によって共鳴現象を起こし、全く新しい、全人類に神聖を思い出させるエネルギーを発生させることです。そのことを神聖復活の印を組む時、意識していきたいものです。

なお、宇宙科学と神聖復活の印については、過去に作成した資料『宇宙の根源のあり方を理解し意識を高める』の資料に整理されています。